

## 板橋区子ども・子育て会議 会議概要及び議事要旨

### ■会議概要

会議名	令和7年度 第3回 板橋区子ども・子育て会議
開催日時	令和7年11月10日（月） 午後2時から午後4時まで
開催場所	区役所南館4階 災害対策室
出席者	<p>28人 委員 野澤会長 吉田副会長 清水委員 高田委員 三枝委員          白鳥委員 田邊委員 山田委員 小室委員 大塚委員 芦谷委員 館岡委員 島田委員 下竹委員 和田委員 斎木委員</p> <p>区側出席者 子ども家庭部長          教育委員会事務局次長 地域教育力担当部長          健康推進課長 障がい政策課長 子ども政策課長          保育運営課長 保育サービス課長 子育て支援課長          支援課長 学務課長 地域教育力推進課長</p>
会議の公開 (傍聴)	公開（傍聴できる）
傍聴者数	9人
議題	<p>【審議事項】</p> <p>(1) (仮称) いたばし子ども・若者・子育て応援プラン2030 素案について          (2) 私立幼稚園の特定教育・保育施設への移行に伴う利用定員の設定について</p>
配付資料	<p>資料1-1 (仮称) 子ども・若者・子育て応援プラン2030(素案) 【概要版】</p> <p>資料1-2 (仮称) 子ども・若者・子育て応援プラン2030 素案</p> <p>資料2 私立幼稚園の特定教育・保育施設への移行に伴う利用定員の設定について</p> <p>参考資料1 板橋区子ども・子育て会議条例</p> <p>参考資料2 委員名簿</p>
所管課	子ども家庭部 子ども政策課 計画調整係 (電話3579-2471)

## 議事要旨

### 【審議事項】

(1) (仮称) いたばし子ども・若者・子育て応援プラン2030素案について

#### ○委員

1点目について、40ページ②区立保育園の再整備では、抜本的に民営化計画を変更するのか。また、70ページ「3 人材確保・人材育成」について、今後子ども一人ひとりを手厚くケアしていくため、特に子ども関連に従事する方々の育成に力を入れていただきたい。

#### ○区

1点目について、37ページ【主要施策②】区立保育園の再整備について基本的な考え方を記述している。既に民営化の対象としている園も含め、この考え方で区立園として存続させる園を検討していく。その結果、民営化計画も見直す可能性がある。2点目について、国も子ども・子育てに関わる人材の確保・育成に力を入れており、区も対策を強化していきたい。

#### ○委員

41ページ【主要施策】①子ども・若者・子育て家庭への経済的支援について、学校給食費の無償化のほか、色々な区で修学旅行費の無償化や学用品への援助等があるが、この5年間は、このまま続くのか、もしくはプラスアルファとなっていくのか。支援が沢山ある方が、若年層の保護者は区に集まってくるのではないか。

#### ○区

現状を記載している。経済的支援は、国や政治の影響が大きく、見通すことが難しい。これまでの傾向を見れば、現状よりもさらなる充実が図られる方向性ではないかと考えている。

#### ○委員

40ページ⑤各児童館における小学生の居場所機能の検討について「可能な範囲で小学生の居場所機能の充実を検討」とあるが、地域の公園も改修によって幼児向けに変わったように思うので、小学生の居場所がないのではないかと感じる。「可能な範囲で」という内容について聞かせて欲しい。

#### ○区

あいキッズ以外に子どもが選択できる居場所として児童館が1つ候補としてあるが、児童館は乳幼児親子向けに再編し、高い評価もいただいている。「可能な範囲で」とは、児童館によって施設の規模・立地などに違いがあり、一律に同じ対応は実態にそぐわないため、児童館ごとに工夫できればと考えている。

#### ○委員

⑦i-youthなどにおける中高生・若者の居場所・支援の充実が新たに加わったとのことだが、高校生以降は、区としての繋がりが持てない中で困り事があった際の受け皿はあるのか。もう少し積極的に、高校生から大学生の年代の方に対して与えるというよりは力を貸してもらうような機会をもって、子育てを支援する動きがあっても良いと思う。

#### ○区

区として高校生とどのように繋がりを持っていくかは課題の一つである。中学生の時から区で活動できる場所があり、高校になってもそこが居場所になっていく仕組み、地域の高校生に力を貸してもらうような取り組みは必要と考えている。またワークショップに参加した高校生の意見では、地域活動をしたいと集まったグループ（サークル）がSNS上で繋がっているので、そこで情報共有するとよいとの意見もあった。高校生や若者世代の声を聴き、生かす仕組みづくりがこれからのが課題である。

#### ○委員

子どもがある程度の年齢になると区外へ引っ越してしまう要因について聞きたい。

#### ○区

就学期になると転出傾向が強くなってくる。転出先は埼京線又は東武東上線沿線の埼玉県内自治

体に多い傾向が見られ、その要因について、子育てサービスを比較して劣っているということはないのではないかと思う一方で、恐らくは住宅の問題や住環境などがあるのではないかと分析している。区民意識意向調査の結果を見ると、転出理由として、公園や緑が豊かな環境を挙げる回答が多い。今回、少子化対策として区が力を入れるべき政策として、まちづくりや特色ある公園づくり、ファミリー向け住宅の供給など、住んでいるまちへの愛着だけでなく、自慢できるようなブランド力を高めていく取組に力を入れていく必要があると考えている。

○委員

1点目として、病児保育をもう少し拡充していただきたい。2点目として、38ページ【主要施策④】新たなあいキッズの展開と居場所づくりの推進とあるが、中学校の不登校問題が心配。例えばi-youthで不登校の生徒を見てあげられるような居場所づくり、あいキッズにも出身小学校の卒業生（中学生）が行ける体制をつくるなど、拡充できるのではないか。3点目として、iCS（板橋区コミュニティ・スクール）でワークショップを実施すれば、色々な情報が集まり、多くの子どもたちの声が聴けると思う。

○区

1点目について、病児保育の拡充については、3月に策定した「いたばし子育て支援・社会的養育推進プラン2029」に基づき、検討していく。2点目について、あいキッズでは不登校児童の居場所として来年度から順次拡充していく予定があるほか、63ページ⑥児童育成支援拠点事業として、不登校を含め、支援が必要な子どもたちの居場所になりうる新しい事業を検討していく。また、多様な学びの場の確保・連携について、教育委員会で策定を進めている計画とも整合を図り、対応していきたいと考えている。3点目について、子どもの声を聴く機会の確保については、子どもワークショップだけでなく、様々な事業において既にワークショップなどが実施されており、そういう取組の見える化や広がりを進めていきたい。

○委員

病児保育は医師会病院でも実施しており、拡充して働きやすい環境をつくりたいと思うが、財源の問題があり、事業の継続も厳しい状態にある。区の支援拡充をお願いしたい。

○区

医療機関の実情も伺っており厳しい状況であると認識している。並行して、ベビーシッター利用支援事業の拡充も検討している。

○委員

不登校の子どもたちの現状として学力の不安があるので、区で学習を支援してもらえるといいと思う。今ではAIを活用し、タブレットでの学習もできるので、不登校の子どもたちへの情報提供について工夫を検討してほしい。また、保護者も施策等の情報を知らない方が多い。41ページの支援の一覧がもう少し分かりやすければ良いと思う。また、知識不足や経験不足が子育ての不安などにつながっていると思うので、保護者が余裕を持って子育てができるよう学べる環境があれば良いと思う。

○区

不登校児童・生徒への学習支援や情報提供の施策については、教育委員会が策定する計画と整合を図ってともに推進していく。また、子育てに関するサービスが多岐に渡っていて、この計画に載っている事業だけでも相当数あり、どのようにわかりやすく伝えるかが課題になっている。国や東京都と連携し、スマートフォンやパソコンで必要な情報を伝えていく仕組みの構築に取り組んでいく

○委員

1点目は、41ページの給食について、食材が高騰してきているが、子どもたちの栄養摂取に影響はないか。また終業式や始業式の日は給食が無い。費用を負担してもいいので給食を出すことはできないか。2点目は、公園遊びや外遊びが小学生・未就学児の子どもたちの大切な身体づくり

につながっている。健康とか成長にかかる施策を加えてほしい。

○区

1点目について、昨今の物価上昇を踏まえ、毎年予算を増額しており、来年度についても検討している。給食の頻度については、学校の指導計画に基づき時間を決めており、全ての登校日に学校給食を提供するのは難しい状況であるが、同様のご意見を多くいただいているので、引き続き注視しながら検討していきたい。2点目について、38ページ【戦略展開の方向性】の下から1つ目と2つ目にて触れているが、重点施策という所に至らなくても5年間で少しづつ充実が図られるよう、検討していきたい。

○委員

61ページの外国籍児童への支援を見ていると教育の話が多い。学校で外国籍の子どもが困らないように学習する内容だと思うが、子どもたちの健やかな成長という面では、親も日本語の理解が必要である。日本語が分からないとさらに施策等の情報を取得できないので、保護者への支援が必要だと感じた。

○区

取組の対象が親なのか子なのか、分かりにくい点については工夫するが、ご意見のとおり、親・子の両面でやっていく必要がある。

○委員

外国人の子どもたちについて、必修で日本語を教える取り組みがあれば良いと思う。

○区

ボランティア等による日本語教室が区内に数か所あり、子ども対象とした教室もある。また、大人向けでは、数年前から、グリーンホールの7階を日本語教室メインで利用できるようにした。お困りの方がいれば、ぜひご案内いただければと思う。

○副会長

66ページの計画指標について、政策や事業を通して何を実現するのかが問われると思う。国も自治体もEBPMによる政策指標を立てて成果を出そうという方向性であり、区も可能な限り重視してほしい。また、令和12年度の目標が単に達成されればよいというだけでなく、そこに至るプロセスと価値を検証することが重要だと思っている。区の子育て家庭、地域住民の方にとって成果として反映、見える化できるような取り組みをしてほしい。

○区

区としてもEBPMの考え方を取り入れながら、進行管理できるよう取り組んでいきたい。毎年、この会議にも報告していく予定であるので、区民にとって成果をわかりやすく見せられるよう、引き続き研究していきたい。

【報告事項】説明・質疑応答

- (1) 私立幼稚園の特定教育・保育施設への移行に伴う利用定員の設定について（資料2）  
(質疑なし)

以上